



第 36 回 昆虫学格致セミナー

マメゾウムシの研究から見えてきたもの：

繁殖干渉と性選択とそれらの関係

京極大助（東北大学大学院 生命科学研究科）

発表者は 2009 年度に卒業研究生として京都大・昆虫生態学研究室でマメゾウムシ類（アズキゾウムシとヨツモンマメゾウムシ）の種間求愛が引き起こす適応度コスト（繁殖干渉）の研究を始めた。繁殖干渉の個体群生態学的な性質の研究（繁殖干渉が引き起こすアリー効果）から始まり、繁殖干渉の行動メカニズム、種内の性選択が形質進化を介して繁殖干渉へ及ぼす波及効果と、研究テーマは変化していった。また、種内ではたらく性選択がその種の個体群のパフォーマンスに与える影響についても検証を行った。こうして、演者は性選択・性的対立・個体群動態・種間相互作用といった、進化生物学と個体群・群集生態学がまじりあう領域へと足を踏み入れることとなった。個体群生態学のモデル生物となっただけでなく、80 年が経過していたマメゾウムシであるが、その研究から見えてきた新たな景色について共有し、議論を行いたい。

とき：2018 年 10 月 26 日（金）13 時 30 分～15 時 30 分

ところ：京都大学農学部 1 階 E-103 号室